

心癒される 永遠のふるさとが、ここに

俳優市毛良枝さん



山はもちろん、山間に広がる里の景色に惹かれ、たびたび山梨を訪れているという市毛さん。山を下ってきて、里の景色を眺めると、心が癒されていくのを感じるといいます。「いずれ住んでみたいなと思いますね」そう話す笑顔にも、山梨へのあたたかい思いが感じられます。

インタビュー

市毛良枝さん

Yoshie Ichige

プロフィール

昭和25年(1950)、静岡県に生まれる。1971年にドラマ「冬の華」でデビュー。その後さまざまな作品に出演。現在もドラマや映画などで活躍中。趣味である登山を生かし執筆活動にも力を入れている。著書に「市毛良枝の里に発見伝」(講談社)、「山なんて嫌いだった」(山と溪谷社)などがある。さらに環境省の環境カウンセラーに登録し、環境問題にも取り組む。その他講演会を行なうなど活動の場を広げている。4月からはTBSドラマ「猟奇的な彼女」に出演。

山と出会い、世界が二変 小さな幸せを感じられるように

国内の山はもちろん、ヒマラヤやキリマンジャロなども踏破し、登山愛好

家としても知られる市毛さん。「小学生のころから体育は苦手、運動にはまったく自信がなかった」そうですが、20年ほど前に父親の最期を看取ってくれた医師の案内で初めて登山を経

験。以来、その魅力にすっかりとりつかれてしまったといいます。

「初めての登山で、人生にこんなに幸せを感じられることがあったのかって思いましたね。風が吹いただけでも感動して、小さなことに幸せを感じられる自分がうれしかったんです。偶然にも、ブロッケン現象や雷鳥を見られたり。山小屋も新鮮でワクワクしました。それまでは俳優という職業柄、時間がとれないとか、日焼けしちゃうダメとか、鑄型にはめこむような生き方をしていたから、時間は努力すればつくれるものだと思えましたし、やりたいと思うことは実現できるという自信を持てるようになりました。出

魅力的な山と里の景色 ここに來るたび癒される

市毛さんが物心ついて初めて山梨を訪れたのは清里。まだ清里の名前が知れだしたところで、ご自身も「胸がキュンとする年ごろだったかな」と笑います。登山を始めてからはたびたび山梨を訪

山を見ながら暮らしたい 山梨にはいつか住んでみたい

最近忙しく、登山を楽しむ時間が思うようにとれないという市毛さん。山梨を訪れる機会も少なくなっているそうですが、山梨ファンであることに変わりはありません。

「山梨にはいつか住んでみたいなと思いますね。歳を重ねて山に登れなくなるとしても、山が見えるところで暮らしたいですから。それに、おいしいおそばや鳥モツも食べられますしね」
その言葉と優しくかわいらしい笑顔には、山梨を愛する市毛さんのあたたかい思いがふれていました。

人の心にとって大切なもの それは心安らぐ美しい景観

「都市化されていく中で、日本人が心の安定を見失ってきた理由には、景観がかかわっていると思うんです。いい景観はお金は生み出しませんが、心にとってはとても大切なものです。ある時ふと、東京を歩いている人はみんな顔が怒っているように見えただんです。都会にはホッとできる景色が少なく、

本人にとって永遠のふるさとだと思っんです。里の景色が残っているのはとても素敵なことですよ。山梨に来るといつも、自然や景色に癒されているなど感じます」

れ、これまでに登った山は数え切れないほど。山梨はとても身近な存在です。「南アルプスも八ヶ岳も大好きですし、瑞牆山もいいですね。山梨には小さくても面白い山がいっぱい。そんなあまり知られていない山にもたくさん登っています。その中でも特に印象に残っているのが日向山です。一見、普通の山なんですけど、登っていくと砂地のすぐく荒涼とした景色が現れるんです。その特異な景色には、とても感動しました。

山梨の魅力は、里の景色にもあります。三分湧水など清らかな湧水もたくさんあって、水の匂いとか、きらめきとか、空気感が東京とは違うんですよ。そういう里の景色って、日



上／山のことや山梨のきれいな風景のことを話すと、顔がほころんできます。
下／南アルプスと桃畑



編笠山(山梨百名山)頂上にて